

# 介護職員初任者研修カリキュラム

A 公共職業訓練 介護職員初任者研修

## 1 職務の理解(6時間40分)

### ○到達目標・評価の基準

研修に先立ち、これから介護を目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 多様なサービスの理解	2時間30分	<b>【講義】</b> ・介護保険制度とは ・介護の意義 ・介護職が活躍するサービス現場の種類 ・介護保険サービスとそれ以外について理解する
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解	4時間10分	<b>【講義】</b> ・介護保険で受けられるサービス介護保険以外のサービス ・介護職の仕事内容、働く現場(施設等)について理解する ・他職種との連携、介護に至るまでの一連の流れを理解する <b>【演習】</b> 視聴覚教材(DVD)を鑑賞後、グループディスカッションを行う(介護職が働く現場や仕事の内容、サービス提供現場の具体的なイメージについて)
合計	6時間40分	

## 2 介護における尊厳の保持・自立支援(9時間10分)

### ○到達目標・評価の基準

・介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。

・介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、インクルーシブ、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。

・虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 人権と尊厳を支える介護	5時間	<b>【講義】</b> 個人としての尊厳 ・個人としての尊厳・権利擁護・個人の尊重と価値 ・社会的役割の実感・介護分野におけるICF・QOL、生活の質と人間の尊重 ・インクルーシブの理念と実際・歴史、高齢者虐待防止法 ・身体拘束の禁止・個人情報保護法 <b>【演習】</b> グループディスカッション(内的QOL、外的QOLについて)
② 自立に向けた介護	4時間10分	<b>【講義】</b> ・専門職として求められる自立と自律 ・自立支援のための介護方法 ・出来ることの見極め方 ・介護予防と健康寿命 ・介護保険と介護予防 ・予防介護と社会的入院 ・基本チェックリストの活用
合計	9時間10分	

### 3 介護の基本(8時間20分)

#### ○到達目標・評価の基準

- ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。
- ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。
- ・介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。
- ・介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。
- ・介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。
- ・生活支援の場では会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。
- ・介護職におこりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2時間30分	<b>【講義】</b> (1)介護環境の特徴 ・訪問介護サービス・施設介護サービス・地域包括ケア (2)介護の専門性 ・重度化防止・遅延化の視点 ・利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支援するための援助 ・根拠ある介護・事務所内のチーム、多職種から成るチーム ・医療行為と医療的ケア (3)介護に関わる職種 ・チームにおける役割分担・介護に関わる職種の機能と役割 <b>【演習】</b> グループディスカッション(チームケアについて、その重要性、役割分担など)
② 介護職の職業倫理	1時間40分	<b>【講義】</b> (1)介護職の職業倫理 ・法令順守・利用者の個人の尊厳と介入 ・日本介護福祉会の倫理要綱
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間30分	<b>【講義】</b> (1)介護における安全の確保 ・介護における安全確保の重要性 ・リスクマネジメント ・リスクマネジメントにおける重要な要素 (2)事故予防、安全対策 ・危険予知と事故予防 ・事故発生時の対応 ・具体的事例 (3)緊急時に必要な知識と対応方法 ・想定される事故 ・応急手当(観察・対応の流れ) ・応急手当の実際 ・一時救命処置の実際 (4)感染症対策 ・感染症の理解 ・注意すべき感染症とその対応 ・感染症予防と対策 <b>【演習】</b> (2)の「リスクマネジメント」についてグループディスカッションを行う (3)の緊急時に行う観察、対応、誤嚥時の対応を体験する。
④ 介護職の安全	1時間40分	<b>【講義】</b> (1)介護職の心身の健康管理 ・介護職の健康管理 ・介護職に起こりやすい健康障害 ・腰痛予防 ・感染症の予防 ・ストレスマネジメント <b>【演習】</b> 腰痛予防の体操を実施する
合計	8時間20分	

#### 4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携(10時間)

##### ○到達目標・評価の基準

- ・介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
- ・生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。
- ・介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。  
例: 税が財源の半分であること、利用者負担割合
- ・ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。
- ・高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
①介護保険制度	4時間10分	<b>【講義】</b> (1) 介護保険制度創設の背景と目的・動向 ・社会的背景・介護保険法の成立・介護保険制度導入後の動向 (2) 介護保険制度の仕組みと基礎的理解 ・保険制度としての基本的仕組み・サービス利用の流れ ・介護保険サービス(介護給付・予防給付) ・地域支援事業、市町村特別給付 (3) 介護保険制度の財源、組織・団体の機能と役割 ・制度運営の役割分担・介護保険事業計画・介護サービス事業者の質の確保 ・介護サービス事業者の質の確保・苦情への対応・情報公表、第三者評価 (4) 医療保険制度の概要 ・医療保険の種類・医療給付の内容・後期高齢者医療制度の概要 (5) 年金保険制度の概要 ・年金保険の種類・年金給付の内容 <b>【演習】</b> グループディスカッション(介護保険の理念について)
② 医療との連携とリハビリテーション	2時間30分	<b>【講義】</b> (1) 高齢者の服薬と留意点 ・薬剤の服用とその観察・薬剤の副作用・薬の種類に合わせた与薬の方法 ・医師や薬剤師との連携についての知識、管理 (2) 経管栄養、吸引、吸入、浣腸など ・介護職員ができる「経管栄養、吸入、吸引、浣腸、」 (3) 健康チェック ・健康チェックに必要な身体観察の視点と観察技術・全身観察 ・体温、脈拍、血圧、呼吸の測定による観察の方法 ・他職種との連携のための観察や、ケアから得た情報の提供 (4) 訪問看護 ・訪問看護ステーション・訪問看護と訪問介護の連携 ・訪問看護と訪問介護の連携 (5) リハビリテーション医療の意識と役割 ・リハビリテーション・リハビリテーション医療の流れ ・リハビリテーション医療と介護の連携 (6) リハビリテーション医療の過程 ・急性期リハビリテーション・回復期リハビリテーション ・維持期リハビリテーション (7) 訪問・通所・地域リハビリテーション ・訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション ・地域リハビリテーション
③ 障害者総合支援制度およびその他制度	3時間20分	<b>【講義】</b> (1) 制度開設の理念・背景と目的 ・我が国の法律で定める障害の捉え方 ・障害者(児)福祉の背景と動向・障害者雇用と就労状況 (2) 制度の仕組みと基礎的理解 ・障害福祉サービスの仕組み・所得の保証 (3) 個人の権利を守る制度の概要 ・消費者基本法・障害者虐待防止法・福祉サービス第三者評価・成年後見制度 日常生活自立支援事業
合計	10時間	

5 介護におけるコミュニケーション技術(6時間40分)

○到達目標・評価の基準

- ・高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。
- ・共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ・家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ・言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ・記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 介護におけるコミュニケーション	3時間20分	<p>【講義】</p> <p>(1) コミュニケーションの意義と目的、役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの基本的要素、目的と方法</li> <li>・相手のコミュニケーション能力への理解と配慮</li> </ul> <p>(2) コミュニケーションの手段と技法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション</li> </ul> <p>(3) 利用者・家族への対応の基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の信用を得るためのカウンセリングマインド</li> <li>・良いコミュニケーションと悪いコミュニケーション</li> </ul> <p>(4) 利用者・家族への対応の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者・家族の思いを把握するコミュニケーション</li> <li>・利用者との信頼関係を結ぶコミュニケーション</li> <li>・家族へのいたわりと励まし</li> </ul> <p>(5) 利用者の状況・状態に応じた対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害者・聴覚障害者・盲ろう者</li> <li>・失語症、構音障害、認知症、高次脳機能障害に応じたコミュニケーション</li> </ul> <p>【演習】</p> <p>生活場面におけるコミュニケーションや対人援助のコミュニケーションについて、ロールプレイングを行う</p>
② 介護におけるチームのコミュニケーション	3時間20分	<p>【講義】</p> <p>(1) 記録による情報の共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録の意義、目的、種類、書き方、記録にかかわる法令</li> </ul> <p>(2) 報告、連絡、相談</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告、連絡、相談の意義・目的、方法</li> </ul> <p>(3) コミュニケーションを促す環境</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の種類と会議に挑む姿勢</li> <li>・ケアカンファレンス</li> <li>・サービス担当者会議</li> <li>・事例研究、事例報告</li> </ul> <p>【演習】</p> <p>例題をもとに、記録、報告、連絡、相談のロールプレイングを行う</p>
合計	6時間40分	

## 6 老化の理解(6時間40分)

### ○到達目標・評価の基準

・加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。

・加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。

例:退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等

・高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。

例:脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 老化に伴うところどころからたの変化と日常	3時間20分	<b>【講義】</b> (1) 老齡期の発達と心身の変化の特徴 ・加齢と老化の概念 ・人格と尊重・老いの価値・性役割と老年期の性 (2) 心身の機能の変化と日常生活への影響 ・老化に伴う心身機能の変化・身体的変化、心理的变化
② 高齢者と健康	3時間20分	<b>【講義】</b> (1) 高齢者の疾病(老年症候群)と生活上の留意点(外科系) ・老年症候群とは・老年症候群の早期発見 ・運動器の機能向上・口腔機能の改善 ・低栄養の改善・認知機能を高める・尿失禁の改善 (2) 高齢者に多い病気と生活上の留意点(内科系) ・生活習慣病・脳神経系、循環器系、肝臓、胆道系、腎・泌尿器、骨や関節、精神、目と耳、皮膚の病気 <b>【演習】</b> グループディスカッション(症状の小さな変化にどのようにすれば気づくことができるか)
合計	6時間40分	

## 7 認知症の理解(8時間20分)

### ○到達目標・評価の基準

・介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。

・認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。

・健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。

・認知症の中核症状と行動・心理症状(BPSD)等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。

・認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方、および介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知症の特徴についても列挙できる。

・認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。

・認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを列挙できる。

例:生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること。

・認知症の利用者とのコミュニケーション(言語、非言語)の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方(良い関わり方、悪い関わり方)を概説できる。

・家族の気持ちや、家族を受けやすいストレスについて列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 認知症を取り巻く状況	1時間40分	【講義】 (1) 認知症ケアの理念 ・認知症ケアの理念・パーソンセンタードケア・認知症ケアの視点
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間30分	【講義】 (1) 認知症の概念と原因疾患 ・認知症の概念・認知症の中核症状・認知症の原因疾患の診断・認知症の治療・認知症と間違えられやすい症状・認知症についての最近の話題 (2) 原因疾患別ケアのポイントと健康管理 ・長期にわたる食生活の偏り・脱水・便秘・低栄養・運動量の低下・廃用症候群(生活不発病)・口腔ケア 【演習】 グループディスカッション(健康的な高齢者の物忘れと、認知症による記憶障がいの違いについて)
③ 認知症に伴うことからの変化と日常生活	2時間30分	【講義】 (1) 生活障害、心理・行動の特徴 ・認知症の人の心の内・周辺状況(BPSD)にみられる認知症の人の思い・原因疾患による認知症症状の違い (2) 利用者への対応 ・ケアのあり方と周辺症状・認知症症状の背景を読み解く・非薬物療法
④ 家族への支援	1時間40分	【講義】 (1) 家族とのかかわり方 ・認知症の受容過程での援助 ・介護負担の軽減(レスパイトケア) 【演習】 授業で学んだ「認知症の人の対応」について、グループディスカッションを行う。
合計	8時間20分	

8 障害の理解(5時間)

○到達目標・評価の基準

- ・障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
- ・障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ・障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 障害の基礎的理解	1時間40分	<b>【講義】</b> (1) 障害の概念とICF(障害者福祉の基本理念) ・障害者福祉の基本理念・障害の概念とICF
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1時間40分	<b>【講義】</b> (1) 肢体不自由(身体障害) ・肢体不自由の代表的な病気とその障害像 ・生活援助のポイント ・廃用症候群・障害需要のプロセスを踏まえた対応 (2) 内部障害 ・内部障害の代表的な疾患、障害・生活援助のポイント ・その他の疾患、障害 (3) 視覚障害・聴覚障害 ・視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害 (4) 音声・言語・咀嚼機能障害 ・失語症・構音障害、発声障害、咀嚼、嚥下機能障害 (5) 精神障害 ・精神医学的な分類図式・分類図式を理解する際の留意点 (6) 統合失調症 ・統合失調症の3つの類型・類型それぞれの中心となる症状、経過 (7) 躁うつ病等 ・気分障害の類型・高齢の患者さんの初発症状、経過の特徴 (8) 神経症性障害(神経症) ・神経症の類型・一般的な対応 (9) アルコール依存症 ・定義・アルコール依存症に伴う身体的、社会的問題 (10) 知的障害 ・特徴・日常生活を支援するポイント (11) ダウン症 ・特徴・日常生活を支援するポイント (12) 高次脳機能障害 ・原因疾病・症状・診断基準・評価方法・対応方法 ※それぞれについて内容、生活上の困難、心理、行動の特徴、支援方法について学ぶ
③ 家族の心理、かかわり支援の理解	1時間40分	<b>【講義】</b> (1) 家族の心理・かかわり支援 ・介護する家族の遭遇するストレス ・障害の理解と受容支援・介護負担の軽減 <b>【演習】</b> グループディスカッション(障害の受容プロセスと基本的な介護の考え方について)
合計	5時間	

## 9 ころとからだのしくみと生活支援技術(79時間10分)

### ○到達目標・評価の基準

- ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。
- ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
- ・主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。
- ・要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則(方法、留意点、その根拠等)について概説でき、生活の中の介護予防、および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。
- ・利用者の身体の状況に合わせた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。
- ・人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる。
- ・人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。
- ・家事援助の機能と基本原則について列挙できる。
- ・装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。
- ・体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。
- ・ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携(ボランティアを含む)について、列挙できる。

	項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
Ⅰ 基本知識 の学習	① 介護の基本的な考え方	4時間10分	【講義】 ・理論に基づいた介護・法的根拠に基づいた介護
	② 介護に関するころのしくみの基礎的理解	4時間10分	【講義】 (1) 学習と記憶に関する基礎知識 ・学習の処理論・記憶のメカニズム・海馬と扁桃体 (2) 感情と意欲に関する基礎知識 ・感情とそれに類似する概念・思考と認知の概念 ・体力と意欲(やる気)の関係 (3) 自己概念と生きがい ・基本的欲求と自己有用感・障害を持った人が今できることを認める ・精神的な拠りどころの必要性・生きがいと意欲 (4) 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 ・人間としての存在価値の喪失感・障害受容のプロセス ・自我の再生支援・行動容姿支援と動機づけ
	③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間10分	【講義】 (1) 健康チェックとバイタルサイン ・基本的な健康チェックのしかた・バイタルサインのとり方 ・正常値とその評価 (2) 骨・関節・筋肉に関する基礎知識 (3) 中枢神経と体性神経に関する基礎知識 (4) 自律神経と内部器官に関する基礎知識



Ⅱ 生活支援技術の講義・演習

④ 生活と家事	3時間20分	<p>【講義】</p> <p>(1) 生活と家事 ・人の暮らし。生活の捉え方・衣食住の環境整備</p> <p>(2) 家事援助の基礎知識と生活支援 ・個性の尊重、個人の価値観、生活歴 ・信頼関係の形成・自立支援</p> <p>【演習】</p> <p>利用者のライフスタイル別にどのような家事援助をするべきか、事例を挙げ、グループディスカッションを行う。</p>
⑤ 快適な居住環境整備と介護	3時間20分	<p>【講義】</p> <p>(1) 快適な住環境に関する基礎知識 ・人と住まい・高齢者に必要な住まいの機能</p> <p>(2) 介護保険による住宅の改修</p> <p>(3) 福祉用具に関する基礎知識</p>
⑥ 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間30分	<p>【講義】</p> <p>(1) 整容に関する基礎知識 ・整容行動とは ・具体的な整容行動(爪切り、口腔ケア、衣類の着脱、整髪、洗面、化粧)</p> <p>【演習】</p> <p>2人1組で爪切り、口腔ケア(歯ブラシ、口腔清拭)衣類(パジャマ)の着脱・交換、和式寝巻の交換を行う。</p>
⑦ 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8時間20分	<p>【講義】</p> <p>(1) 移動・移乗に関する基礎知識 ・移動・移乗介護の意義、目的・残存能力の活用、自立支援 ・利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法の基礎であるボディメカニクス</p> <p>(2) 移動・移乗のための用具と活用方法 ・移動・移乗に関する福祉用具の種類・各福祉用具の特徴 福祉用具の適切な活用方法</p> <p>(3) 負担の少ない移動・移乗と支援方法 ・活動の低下が及ぼすところとからだへの影響 ・各介助(体位交換、移乗、補講、車いす)の具体的な方法</p> <p>(4) 移動と社会参加の留意点と支援 ・日常生活の活性化・外出の介助・社会参加の意味</p> <p>【演習】</p> <p>2人1組で、体位交換、移乗、歩行の介助、視覚障害者への移動介助、車いすの介助を行う</p>
⑧ 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8時間20分	<p>【講義】</p> <p>(1) 食事に関する基礎知識 ・私たちの生活における食事の意味 ・食事摂取のしくみ・加齢や障害に伴う様々な症状</p> <p>(2) 食事環境の整備と用具の活用方法 ・食事に関連した観察のポイント ・適切な食事環境</p> <p>(3) 楽しい食事を阻害する要因と支援方法 ・さまざまな状態像に合わせた介護方法 ・誤嚥した場合の対応 ・食事介助における観察ポイントと記録</p> <p>(4) 食事と社会参加の留意点と支援 ・食事介護の社会的側面・口腔機能</p> <p>【演習】</p> <p>2人1組で、食事介助、誤嚥した場合の対応を行う。 自助具(使いやすく工夫された食器、スプーン等)を体験する。 食事介護における記録を作成する。</p>
⑨ 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間40分	<p>【講義】</p> <p>(1) 入浴と清潔保持に関する基礎知識 ・入浴介護・清拭介護</p> <p>(2) 入浴と整容の活用方法 ・シャワー浴、一般浴(片マヒ利用者)の介助 ・清拭の介助・手浴、足浴の介助・洗髪、ひげ剃りの介助</p> <p>(3) 楽しい入浴を阻害する要因と支援方法 ・入浴に際したリスクと対応(認知症高齢者含む)</p> <p>【演習】</p> <p>2人1組で入浴介助、清拭を行う。</p>

II 生活支援技術の講義・演習	⑩ 排泄に関連したしたところとからだのしくみと自立に向けた介護	7時間30分	<b>【講義】</b> (1) 排泄に関する基礎知識 ・排泄の意義、メカニズム、障害・失禁の種類 (2) 排泄環境の整備と用具の活用方法 ・排泄しやすい環境整備。排泄用具の種類と特徴・オムツの弊害 (3) 爽やかな排泄を阻害する要因と支援方法 ・排泄障害が日常生活に及ぼす影響・排泄を支援する際の基本原則 ・排泄支援の実際 <b>【演習】</b> 2人1組で、ポータブルトイレを使用して排せつ介助、オムツ交換、を行う。
	⑪ 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	6時間40分	<b>【講義】</b> (1) 睡眠に関する基礎知識 ・睡眠の基礎知識・睡眠の役割・睡眠障害の種類 (2) 睡眠環境と用具の活用方法 ・寝室の環境整備・寝具の種類と選び方・こちよく眠るための生活 (3) 快い睡眠を阻害する要因と支援方法 ・睡眠を阻害する要因・心身の苦痛の軽減・安楽な体位・褥瘡予防 <b>【演習】</b> 寝具の整えを実際に行う(たたみ方含む)。2人1組で寝床上での体位交換、褥瘡への対応を行う
	⑫ 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	5時間	<b>【講義】</b> (1) 終末期に関する基礎知識 ・終末期ケアとは・住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケア (2) 生から死への過程とこころの理解 ・高齢者の死に至るパターンとケアの特徴 ・終末期の身体的状態と苦痛を和らげるケア ・終末期の心理状態 (3) 苦痛の少ない死への支援と他職種との連携 ・ケアプランに基づいた介護・介護従事者の役割と他職種との連携 ・全身状態の観察・誤嚥防止と嚥下状態の観察・心理状態の観察 ・介護従事者の基本的態度 <b>【演習】</b> 終末期ケアプランについてグループディスカッションを行い、発表する。
III 生活支援技術演習	⑬ 介護過程の基礎的理解	5時間	<b>【講義】</b> (1) 介護過程の基礎的理解 ・科学的思考と介護過程・介護過程の展開に必要な構成要素
	⑭ 総合生活支援技術演習	5時間	<b>【演習】</b> ・事例による展開(ケーススタディ) アセスメント→計画の立案→介護の実施→評価→アセスメントを意識し、①衣服の着脱介助②移動介助③食事介助④排泄介助⑤入浴介助を具体的にどのように行うかをグループディスカッションを行い、発表する。
合計		79時間10分	

10 振り返り(5時間)

○到達目標・評価の基準

研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。

項目名	時間数	講義内容及び演習の実施方法
① 振り返り	2時間30分	【講義・演習】 これまで講義、演習で学んだ内容の、特に重要な点を講義及び介護用具を使用した演習で振り返る。
② 就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2時間30分	【講義】キャリアプランの立て方。キャリアアップについて 職場でのoff-jt、o-jt、振り返りの重要性 【演習】 研修終了後の就業のあり方についてグループディスカッション
合計	5時間	
総合計時間	145時間	

※規定時間数以上のカリキュラムを組んでもかまわない。

※本研修で独自に追加した科目には、余白に「追加」等の表示をすること。